

## 演題「主観的把握と日本語の発想—日英対照に基づく言語文化の考察—」

講師：鍋島弘治朗先生（関西大学教授）

本発表では、日本語の発想をテーマに、一般の日本人観、日本文化観を素朴な形で記述する。その後、池上嘉彦の理論（池上 1981, 2000）を援用して、これらの日本語の発想を英語と対比し、複数の対立軸からなる体系として理解することを試みる。また、対立軸の存在を裏付ける証拠として認知言語学、発達心理学、脳実験など多分野の研究成果を紹介する。

### 参考文献

池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

池上嘉彦 (2000) 『「日本語論」への招待』講談社